

遺跡No	遺構種別	遺構N	時期	説明	グリッド	形態	主軸	長さ	幅	深さ	付属施設	出土遺物
63-052	竪穴建物跡	0001	—	調査区の中央東側に位置する。平面形態は1辺約3.8mの方形と見られ、その東側は3号溝に切られている。建物内にはピット4基が存在している。	A区	方形	—	3.80	3.80	0.20	—	石製模造品
63-052	溝	0001	6世紀前半以前	調査区の北端を東西方向に走り、第2号溝に上から切られている。溝の長さは約18.2m、上幅は約2.2m、下幅は約0.2mを測り、断面はV字形を呈している。堆積土層中には、Hr-FA(榛名山二ツ岳)と見られる火山灰が堆積していたことから、この第1号溝の掘削時期は、火山灰降下時期の6世紀前半以前であると推定される。	A区	—	—	18.20	2.20	1.20	—	土師器高坏・甕、須恵器高台坏、瓦質内耳鍋・甕・擂鉢、棒状鉄製品、鉄滓
63-052	溝	0002	—	調査区の北端を東西方向に走り、その両端はそれぞれ北方向へ屈曲する。	A区	—	—	20.00	0.80	0.30	—	土師器甕
63-052	溝	0003	—	調査区の東端を北東から南西方向に走り、第1号竪穴建物跡を上から切っている。攪乱により大きく乱されており、溝の東側の立ち上がり部分は約10cmしか残存していない。	A区	—	—	—	1.50	0.45	—	土師器高坏、瓦質内耳鍋
63-052	井戸	0001	—	調査区の北西端に位置し、第2号溝跡に上から切られる。確認面から約1mまで掘削を行ったが、遺構底面は確認できなかった。	A区	円形	—	2.00	1.60	—	—	須恵器高台坏
63-052	土坑	0001	—	調査区の中央西側に位置する。	A区	隅丸長方形	—	1.30	0.70	0.15	—	—
63-052	土坑	0002	—	調査区の中央西寄りに位置する。	A区	円形	—	1.30	1.30	0.25	—	—
63-052	土坑	0003	—	調査区の中央南西寄りに位置する。	A区	隅丸長方形	—	2.00	0.90	0.20	—	—
63-052	土坑	0004	—	調査区の中央北寄りに位置する。	A区	隅丸長方形	—	2.20	0.90	0.10	—	—
63-052	土坑	0005	—	調査区の中央部に位置する。	A区	隅丸長方形	—	5.10	0.80	0.20	—	—
63-052	土坑	0006	—	調査区の中央南寄りに位置し、第7号ピットを上から切っている。	A区	不整円形	—	1.20	0.50	0.15	—	—
63-052	土坑	0007	—	調査区の中央北寄りに位置する。	A区	円形	—	1.50	1.00	0.10	—	須恵器蓋
63-052	土坑	0008	—	調査区の中央北東側に位置し、第9号土坑を上から切る。	A区	隅丸長方形	—	4.50	0.80	0.20	—	—
63-052	土坑	0009	—	調査区の中央北東側に位置し、第8号・10号土坑に上から切られる。	A区	隅丸長方形	—	4.70	0.70	0.10	—	—

63-052	土坑	0010	—	調査区の中央北東側に位置し、第9号土坑を上から切る。	A区	円形	—	—	1.50	0.20	—	—
63-052	土坑	0011	—	調査区の北東側に位置する。	A区	隅丸長方形	—	3.40	0.60	0.15	—	—
63-052	土坑	0012	—	調査区の北東側に位置する。	A区	円形	—	2.00	1.60	0.25	—	土師器甕
63-052	土坑	0013	—	調査区の北東端に位置し、第14号土坑を上から切られる。	A区	隅丸長方形	—	3.60	0.95	0.10	—	—
63-052	土坑	0014	—	調査区の北東端に位置し、第13号土坑を上から切る。	A区	隅丸長方形	—	2.80	0.80	0.10	—	—
63-052	土坑	0015	—	調査区の南側に位置する。	A区	円形	—	0.90	0.65	0.20	—	—
63-052	土坑	0016	—	調査区の北東側に位置する。	A区	隅丸長方形	—	1.80	0.40	0.10	—	—
63-052	土坑	0017	—	調査区の中央部に位置する。	A区	円形	—	1.70	1.40	0.95	—	土師器高坏
63-052	土坑	0018	—	調査区の中央南寄りに位置する。	A区	隅丸長方形	—	1.00	0.60	0.10	—	—
63-052	土坑	0019	—	調査区の中央南寄りに位置する。	A区	不整円形	—	1.60	0.90	0.40	—	—
63-052	ピット	0001	—	調査区の北西端に位置する。	A区	円形	—	—	0.60	0.05	—	—
63-052	ピット	0002	—	調査区の中央北側に位置し、第2号溝を上から切る。	A区	円形	—	—	0.75	0.65	—	土師器甕
63-052	ピット	0003	—	調査区の中央北寄りに位置する。	A区	不整円形	—	0.90	0.60	0.25	—	須恵器坏
63-052	ピット	0004	—	調査区の中央に位置する。	A区	円形	—	—	0.50	0.30	—	—
63-052	ピット	0005	—	調査区の北東側に位置する。	A区	不整円形	—	0.80	0.35	0.40	—	土師器坏、須恵器坏
63-052	ピット	0006	—	調査区の北東端に位置する。	A区	円形	—	—	0.45	0.30	—	—
63-052	ピット	0007	—	調査区の中央南寄りに位置し、第6号土坑を上から切られる。	A区	不整円形	—	0.85	0.50	0.10	—	—
63-052	ピット	0008	—	調査区の中央東寄り、第1号竪穴建物跡の内に位置する。	A区	円形	—	—	0.50	0.35	—	—
63-052	ピット	0009	—	調査区の中央東寄り、第1号竪穴建物跡の内に位置する。	A区	円形	—	—	0.40	0.30	—	—

63-052	ピット	0010	—	調査区の中央東寄り、第1号竪穴建物跡の内に位置する。	A区	円形	—	—	0.40	0.25	—	—
63-052	ピット	0011	—	調査区の中央東寄り、第1号竪穴建物跡の内に位置する。	A区	円形	—	—	0.30	0.35	—	—
63-052	溝	0003	—	A区の東端に位置し、第3次調査で確認された第3号溝跡の延長部分と見られる。溝跡全体は北東から南西方向に走っており、4次調査区の範囲でやや西側に曲がっていくと想定されるが、攪乱で大きく乱されているため、その詳細は不明である。溝跡の底部と西側の立ち上がりが一部残存するのみである。	B区	—	—	—	1.30	0.55	—	焙烙
63-052	土坑	0001	—	A区の北西端に位置する。	B区	円形	—	—	0.10	0.10	—	—
63-052	土坑	0002	—	A区の中央西寄りに位置する。	B区	隅丸長方形	—	1.50	1.20	0.10	—	土師器甕
63-052	土坑	0003	—	B区の北西側に位置する。	B区	円形	—	2.20	1.10	1.00	—	土師器甕・高台坏・椀
63-052	土坑	0004	—	B区の中央西寄りに位置する。	B区	隅丸長方形	—	1.40	0.90	0.50	—	—
63-052	土坑	0005	—	B区の南西端に位置する。	B区	円形	—	—	0.80	0.10	—	—
63-052	ピット	0001	—	A区の中央西側に位置する。	B区	円形	—	—	0.45	0.15	—	土師器椀